

◆ 校訓 「高雄の子ども」 ◆
たくましい子 考える子 思いやりのある子

学校教育目標
未来に向かって 一人一人が輝く！

めざす子どもの姿

- 【たくましい子】夢や目標をもち、その実現に向かって主体的に努力する子ども
【考える子】多様な「ひと・もの・こと」と積極的に関わり、よりよい自分を求めていく子ども
【思いやりのある子】他を認め、共に学び合い、支え合い、高め合える子ども



実現のためのキーワードは「コミュニケーション」
コミュニケーションの基本として「あいさつ」「聴く力」「伝える力」をしっかり身に付ける

めざす学校の姿

- 現地校の中にあるという特色を生かした魅力ある学校
- 子ども一人一人に寄り添い、よりよい自己実現をサポートする学校
- 家庭や地域、現地校との関わりとつながりを大事にする開かれた学校

めざす教師の姿

- 目標の実現をめざし、主体的に、具体的に行動できる教師
- 在外教育施設の教員としての自覚と責任をもち、自らの知見を高めようとする教師
- 互いに切磋琢磨しながら授業力を磨き、「チーム高雄」の一員として動く教師

経営の重点と施策

①「確かな学力」の向上

- ▣ 問題解決的な学習による「子ども主体」の授業づくり
- ▣ 「聴いて、考えて、つなげる」授業の構築
- ▣ 一人一人を伸ばすための個に応じた指導の充実

②「豊かな心」の育成

- ▣ いつでも、どこでも、誰にでも気持ちのよいあいさつができる子どもの育成
- ▣ 読書活動の推進と充実
- ▣ 「特別の教科 道徳」の充実

③ 生きる力を育む「キャリア教育」の充実

- ▣ 各教科等の特質に応じたキャリア教育の充実
- ▣ 系統性を踏まえた進路指導の充実
- ▣ 子ども一人一人の発達を支える生徒指導の充実

④「グローバル人材」の育成をめざした国際理解教育の充実

- ▣ 異文化理解を深めるための体験活動や行事等の充実
- ▣ 日本人としてのアイデンティティの自覚化
- ▣ コミュニケーションのツールとしての語学力の育成

⑤ 家庭や地域、現地校との「交流と連携」の推進

- ▣ 学校評価の実施と活用による開かれた学校づくり
- ▣ 積極的な情報発信による連携の重視
- ▣ 中正國小やその他の現地校との相互理解を深める活動の重視

⑥「安心・安全」な教育環境の構築

- ▣ 児童生徒の健康と安全の確保
- ▣ 学校の安全確保
- ▣ 危機管理の徹底

研究主題

「一人一人がめあてを明確にして、対話を通して学びを深める児童生徒の育成」
～ 高雄スタンダードによる授業づくり、ICT活用による授業づくり ～

◆ 経営の重点と施策(細目)

1 「確かな学力」の向上

- (1) 問題解決的な学習による「子ども主体」の授業づくり
 - ・ 「高雄スタンダード」
※〔めあて(課題)⇒活動(個の思考/主体的・対話的な学び)⇒まとめ⇒振り返り〕を徹底する。
 - ・ 「問い」の質を深めることで、1時間を貫く課題意識をもたせる。
- (2) 「聴いて、考えて、つなげる」授業の構築
 - ・ 聴き方の視点を明確にすることで、「見方・考え方」を鍛える。
 - ・ 対話による「協働的な学び」を通して、学習の質を高めて発信させる。
- (3) 一人一人を伸ばすための個に応じた指導の充実
 - ・ ICTを活用した「個別最適な学び」を意図的・計画的に実施し、基礎・基本の定着と学習意欲の喚起を図る。
 - ・ 朝学習や「家庭学習の手引き」を個の実態に応じて効果的に活用する。

2 「豊かな心」の育成

- (1) いつでも、どこでも、誰にでも、気持ちのよいあいさつができる子どもの育成
 - ・ 特別活動を通じた、計画的・継続的な指導を充実させる。
 - ・ 委員会活動等、子ども主体の啓蒙活動で意欲付けを図る。
- (2) 読書活動の充実と推進
 - ・ 週3回(月・水・金)の朝読書を継続的に実施する。
 - ・ 読み聞かせやブックノート等の読書活動を工夫し、子どもの読書意欲を喚起する。
- (3) 「特別の教科 道徳」の充実
 - ・ 子どもの実態を踏まえ、ねらいを明確にして授業を構想し、計画的に実施する。
 - ・ 「考え 議論する道徳」をめざした授業改善を推進する。

3 生きる力を育む「キャリア教育」の充実

- (1) 各教科等の特質に応じたキャリア教育の充実
 - ・ 学ぶことと将来とのつながりを意識させ、学ぶ意欲を喚起する。
 - ・ 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に実施する。
- (2) 系統性を踏まえた進路指導の充実
 - ・ キャリアパスポートを活用して、将来の夢をもてるように、児童生徒の自己有用感や自己肯定感を高める指導を行う。
 - ・ 地域や社会と関わる体験的な活動を、系統的・計画的に実施する。
- (3) 子ども一人一人の発達を支える生徒指導の充実
 - ・ 個々の実態に応じて組織的に支援するために、全教職員間のきめ細かな情報共有を図る。
 - ・ 日常的な「対話」を大切に、意図的な面接や面談を通じたカウンセリングを行う。

4 「グローバル人材」の育成をめざした国際理解教育の充実

- (1) 異文化理解を深めるための体験活動や行事等の充実
 - ・ 台湾の文化や歴史に触れる機会を意図的・計画的に設定する。
 - ・ 現地校との交流活動を学年の発達段階に応じ、ねらいを明確にして実施する。
- (2) 日本人としてのアイデンティティの自覚化
 - ・ 各教科等に応じ、日本の歴史や文化等を意識した学習を取り入れる。
 - ・ 現地校との交流活動で、日本の伝統行事や日本文化を紹介する活動を取り入れる。
- (3) コミュニケーションのツールとしての語学力の育成
 - ・ 小学校から中学校への外国語活動の円滑な接続と系統性を重視する。
 - ・ 個の習熟に応じた中国語指導で、基本的な生活言語を身に付けさせる。

5 家庭や地域、現地校との「交流と連携」の推進

- (1) 学校評価の実施と活用による開かれた学校づくり
 - ・ 学校経営の重点と連動した評価項目で、学校評価を年2回実施する。
 - ・ 学校評価の結果と改善案を保護者に提示し、共通理解を図る。
- (2) 積極的な情報発信による連携の重視
 - ・ 学校だより、学級だより、ホームページ、GoogleClassroom等により積極的に情報発信する。
 - ・ 授業参観や懇談会、学校公開週間を設定し、内容の充実を図る。
- (3) 中正國小やその他の現地校との相互理解を深める交流活動の重視
 - ・ 朝のあいさつ運動や清掃活動等、児童生徒による主体的な活動を促す。
 - ・ 中正國小やその他の現地校との交流活動、行事、教職員との親睦を積極的に推進する。

6 「安全・安心」な教育環境の構築

- (1) 児童生徒の健康と安全の確保
 - ・ 関係機関と連携して、児童生徒の環境衛生に十分配慮する。
 - ・ 事故やけがの未然防止のために、教職員による休み時間等の見守り体制を充実を図る。
- (2) 学校の安全確保
 - ・ 日常的な施設設備の点検により、危険個所の早期発見と早期対応に努める。
 - ・ 安全点検日を月1回設定し、担当箇所の安全点検を重点的に行う。
- (3) 危機管理の徹底
 - ・ 危機管理マニュアルを整備し、研修等を通して有効に活用する。
 - ・ 避難訓練の計画的な実施により、児童生徒の危機管理意識を高める。